

◆ 目黒区 ◆

中小企業の景況

平成27年度第2・四半期
(平成27年7~9月)



目黒区 産業経済部 産業経済・消費生活課

目 次

1. 都内中小企業の景況	1
2. 目黒区内中小企業の景況（平成 27 年 7～9 月期）	2
（1）今期の特徴点	2
（2）今期の景況と来期の見通し	5
製造業	5
卸売業	9
小売業	12
サービス業	15
建設業	18
（3）調査員のコメント	21
3. 日銀短観／東京都と目黒区の企業倒産動向（平成 27 年 9 月）	24
4. 特別調査「中小企業が地域金融機関に望むこと」	27
5. 中小企業景況調査 比較表・転記表	30

調 査 の 概 要

1. 調査時期 平成 27 年 7 月～9 月期（四半期毎実施）
2. 調査方法 面接聴取調査
3. 調査の対象と回収状況

	調査対象事業所数	有効回答事業所数
製 造 業	98	93
卸 売 業	29	28
小 売 業	52	49
サ ー ビ ス 業	59	57
建 設 業	42	38
合 計	280	265

調査実施機関 一般社団法人東京都信用金庫協会

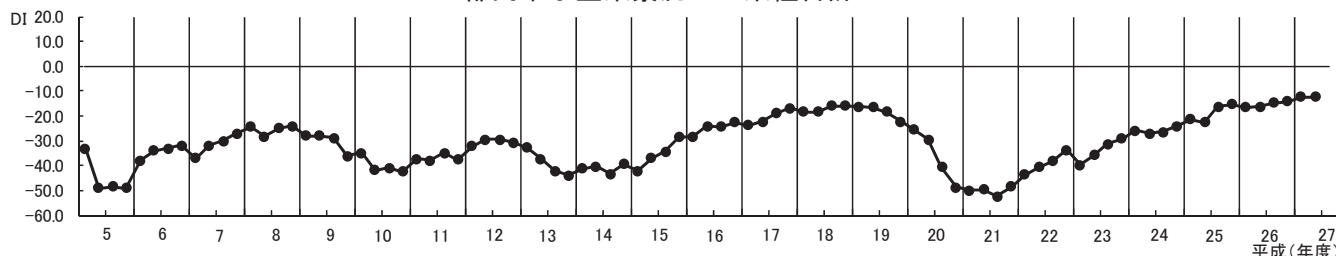
分析実施機関 株式会社帝国データバンク

1. 都内中小企業の景況（平成27年7～9月期）

（一般社団法人 東京都信用金庫協会調べ）

業況、足踏み状態 ～来期も全体として今期並の予想～

都内中小企業景況・6業種合計 DI



業況判断 DI（季節調整済、「良い」企業割合－「悪い」企業割合）は－12.2（前期は－12.2）と前期から変動はなかった。業種別においても同様大きな変動はなかった。

来期は卸売業で水面下ながら上向くと予想している。

	前 期	今 期	増 減	来 期 予 想	今期との増減
製 造 業	-11.5	-11.1	0.4	-10.0	1.1
卸 売 業	-11.5	-11.2	0.3	-8.1	3.1
小 売 業	-26.6	-26.7	-0.1	-25.9	0.8
サ ー ビ ス 業	-13.5	-13.5	0.0	-12.1	1.4
建 設 業	8.0	6.6	-1.4	7.8	1.2
不 動 産 業	-0.5	-0.7	-0.2	-0.4	0.3
総 合	-12.2	-12.2	0.0	-10.9	1.3

<製造業>

業況は前期同様の厳しさが続いた。売上額・受注残・収益は前期並の減少が続いた。価格面では、販売価格は変動なく推移し、原材料価格は多少落ち着きを見せた。

業種別に見ると、「輸送用機械」「化学工業」は前期並の良好感が続き、「木材・家具」は水面下ながら大きく改善し、「建設用金属」「プラスチック」「プレス・メッキ」「紙・紙加工品」「印刷関連」はやや厳しさが和らいだ。「精密機械」は前期同様変化なく、「一般機械」「金属製品」は前期同様の厳しさが続いた。「電気機械」は大きく水面下に落込んだ。「食料品」はやや低調感を強め、「ゴム製品」「繊維・衣服」「皮革関連」はかなり厳しさを増した。

来期の業況は、今期同様の厳しさが続くともっている。売上額・収益は減少に歯止めがかかり、受注残は今期並の減少が続くとみている。

<卸売業>

業況は前期同様の厳しさが続いた。売上額は前期並の低迷が続き、収益は水面下ながらわずかに持ち直した。価格面では、販売価格・仕入価格ともに、やや上昇傾向を強めた。

業種別では、「繊維・衣服」は水面下ながらかなり厳しさが和らいだ。一方、「化学製品」は大きく水面下に落込み、「食料品・飲食品」「鉱物・金属材料」は大幅に悪化した。

来期の業況は、水面下ながら厳しさが和らぐともっている。売上額・収益はともに改善すると予想している。

<小売業>

業況は前期同様の厳しさが続いた。売上額はわずかに減少を強め、収益は前期並の減少が続いた。価格面では、販売価格は変動なく推移し、仕入価格は前期並の上昇が続いた。

業種別では、「スポーツ用品・玩具」「自転車・自動車」「書籍・文房具」は大きく持ち直し、「家具・建具・じゅう器」は水面下ながら幾分改善した。一方、「繊維・衣服・身の回り品」は若干低調感を強め、「家電・家庭用機械」「カメラ、時計・眼鏡」はかなり業況感が落込んだ。

来期の業況は、今期同様の厳しさが続くともっている。売上額・収益は減少が一服するとみている。

<サービス業>

業況は前期同様の厳しさが続いた。売上額・収益は前期並の減少が続いた。価格面では、料金価格は変動なく推移し、材料価格は前期並の上昇が続いた。

業種別に見ると、「情報サービス・調査・広告」はわずかにプラスに転じ、「自動車整備・駐車場」「洗濯・理容・美容」は前期同様の厳しさが続いた。

来期の業況は厳しさが和らぐともっている。売上額・収益はともに改善するとみている。

<建設業>

業況は前期並の良好感が続いた。売上額・受注残・施工高・収益は幾分低迷した。価格面では、請負価格・材料価格はともに前期並の上昇が続いた。

業種別に見ると、「職別工事」は多少良化した。一方、「総合工事」はやや増勢が後退し、「設備工事」は大きく好調感が縮小した。

来期の業況は今期同様の水準で推移すると予想している。売上額は強含み、受注残・施工高は今期同様の増加が続き、収益は増減なく推移するとみている。

<不動産業>

業況は前期同様変化なく推移した。売上額は増減なく推移し、収益はわずかに改善した。価格面では、販売価格はほぼ横這いで推移し、仕入価格は前期並の高い水準が続いた。

業種別に見ると、「建売・土地売買」はやや好調感が後退し、「不動産代理・仲介」は前期同様変化なく推移した。

来期の業況は、今期同様変化がないものとみている。売上額は好転し、収益は今期同様の水準で推移すると予想している

[注]

○D.I (Diffusion Index ディフュージョン インデックス の略)

D.I (ディーアイ) は増加（又は「上昇」「楽」など）したと答えた企業割合から、減少（又は「下降」「苦しい」など）したと答えた企業割合を差し引いた数値のことで、不変部分を除いて増加したとする企業と減少したとする企業のどちらの力が強いかを比べて時系列的に傾向をみようとするものです。

○（季調済）D.I・・・本調査における D.I は季調済 D.I を使用しています。

季調済とは、各期ごとに季節的な変動を繰り返す D.I を過去 5 年間で遡って季節的な変動を除去して加工した D.I 値です。修正値ともいいます。

○傾向値

傾向値は、季節変動の大きな業種（例えば小売業）ほど有効で、過去の推移を一層なめらかにして景気の方角をみる方法です。